

環境活動レポート

2007年度

ご挨拶

北の大地「北海道」は、豊かで優れた自然環境に恵まれ、私達に数多くの恩恵を与えてくれました。

しかしながら、地球温暖化やダイオキシン等の有害物質の発生、廃棄物の増大等が大きな社会問題となっております。

そうした状況の中で経済の高度成長により、大量生産・大量消費・大量破壊という社会経済のシステムを見直し、「持続可能な循環型社会」に変えてゆくことが求められております。

今日、環境と経済が両立した企業活動により、「地球環境問題」に対応してゆくことが企業としての社会的責任であり、産業廃棄物処理を主たる事業としている当社といたしましては、環境負荷を可能な限り低減し、北海道のすぐれた自然を次世代へ引き継ぐ責務があると認識しております。

こうした基本理念の基に、企業経営に環境マネジメントシステムを導入し、環境問題に取り組んでまいりました。

ここに、本年度の環境改善活動の結果をご報告し、皆様のご意見をいただきたいと存じます。

2008年7月24日
環境エンジニアリング株式会社
代表取締役
高橋 正志

環境エンジニアリング株式会社

〒065-0019 北海道 札幌市 東区 北19条 東1丁目 1番 1号
TEL (011) 741-3670 FAX (011) 741-0671
URL <http://www.kankyou-eng.co.jp>

目 次

ページ

会社概要	3
1. HES:産業廃棄物処理業者システム規格認証登録内容	4
2. 環境改善活動の取り組み体制	4
3. 環境に関する基本方針	5
4. 環境目標と実績	5
5. 環境改善活動の評価	6
6. 法的及び組織が同意するその他の要求事項	6
7. 2007年度活動の評価と今後の課題	6

■ 会社概要

○会社名	環境エンジニアリング株式会社			
	札幌本社	011-741-3670		
		〒065-0019	札幌市東区北19条東1丁目1番1号	
	美唄支店	0126-64-3033		
		〒072-0002	北海道美唄市東1条北9丁目1117番地11	
	美唄処分場	0126-65-4688		
		〒079-0261	北海道美唄市字サンクワ美唄	
○事業内容	産業廃棄物の収集運搬、処分及びそれに関するサービスの提供			
○資本金	1,000万円			
○売上高	10,000万円			
○従業員数	15名			
○敷地面積	美唄支店	452.63㎡	処分場	390,387㎡
○延床面積		64.59㎡	処分場	45.87㎡ (計量場、事務所)
○沿革	1992年10月 (平成4年) : 設立			

(1) 事業規模

① 収集運搬業

- ・ 運搬車両の種類と台数 : 11tダンプ1台
- ・ 積替保管施設の有無と面積及び保管上限量 : なし

② 処分業

- ・ 処理施設の種類 : 安定型及び管理型最終処分場
- ・ 処理する産廃の種類 : 燃え殻、廃プラスチック、紙くず、木くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、鉱さい、繊維くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、汚泥、ばいじん、処分するために処理したもの。
- ・ 処理能力 : 15,132m² 109,477m³
- ・ 処理方式 : セル方式

- ・ 処理施設の種類 : 安定型最終処分場
- ・ 処理する産廃の種類 : 廃プラスチック、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
- ・ 処理能力 : 13,143m² 101,610m³
- ・ 処理方式 : サンドイッチ方式

- ・ 処理施設の種類 : がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設
- ・ 処理する産廃の種類 : がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず。
- ・ 処理能力 : 456t/日 (8時間) 57t/時間
- ・ 処理方式 : 破碎 (ジョウクラッシャー) 2次破碎

- ・ 処理施設の種類 : がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設
- ・ 処理する産廃の種類 : がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず。
- ・ 処理能力 : 3,200t/日 (8時間) 400t/時間
- ・ 処理方式 : 破碎 (ジョウクラッシャー)

- ・ 処理施設の種類 : 廃油、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくずの焼却施設
- ・ 処理する産廃の種類 : 廃油、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず
- ・ 処理能力 : (廃油) 10.3m³/日 (8時間) 1.28m³/時間
(廃プラスチック) 10.6t/日 (8時間) 1.325t/時間
(産業廃棄物) 19.4t/日 (8時間) 2.43t/時間
- ・ 処理方式 : 連続投入方式

(2)処理実績

処理実績	単位	2006年度	2007年度
産業物取扱量(総物質投入量)	t	13,293	23,952

注)既存施設を2006年10月より引継いで稼働中であり、2006年度は冬期間を含む半年間の稼働実績です。(2006年は10月～3月)

(3)廃棄物の処理料金

- ・運搬距離、廃棄物内容、回収形態等により、都度見積を行う。
基本単価(詳細はHPを参照願います。)
- 燃え殻 40,000円/t (管理型埋立)
- 汚泥 25,000円/t (脱水・管理)
- 廃プラスチック 60,000円/t (安定型埋立)
- がれき類(無筋コンクリート) 800円/t (破碎)

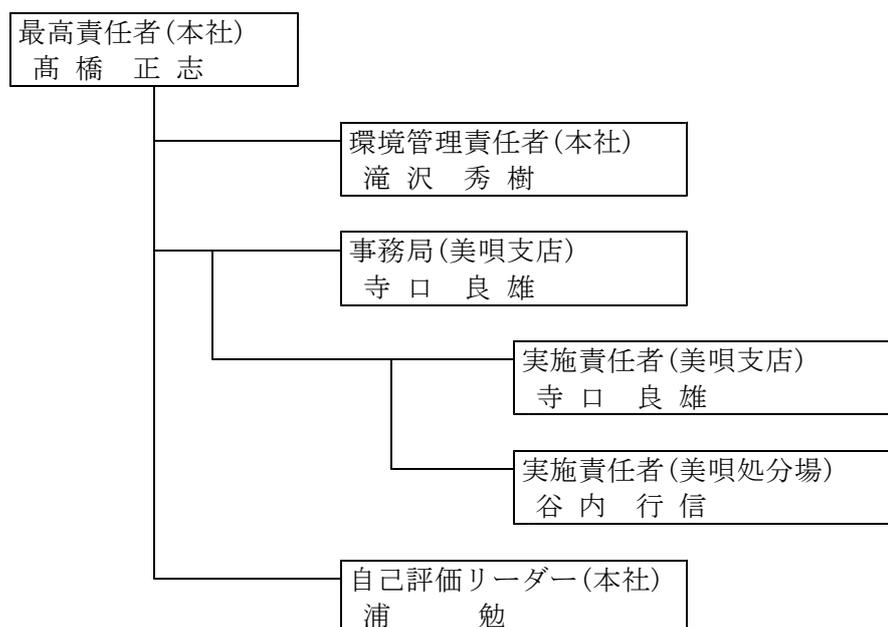
(4)許認可一覧

許認可	有効期限	自治体名
産業廃棄物処分業許可番号: 許可年月日:	第0140125448号 平成23年3月28日	北海道
特別管理産業廃棄物処分業許可番号: 登録年月日:	第0190125448号 平成23年3月28日	北海道
産業廃棄物収集運搬業許可番号: 許可年月日:	第0100125448号 平成23年7月27日	北海道
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可番号: 許可年月日:	第0150125448号 平成23年7月27日	北海道

1. H E S:産業廃棄物処理業者システム規格認証登録内容

- 登録日:2008年7月24日認証取得
- 登録範囲:登録組織全域における産業廃棄物収集運搬、処分及びリサイクル並びに中間処理に係る全ての事業活動

2. 環境改善活動の取り組み体制



3. 環境に関する基本方針

環境に関する基本方針	
<p>〈基本理念〉</p> <p>環境エンジニアリング株式会社は、事業運営と地球環境の保全を両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組めます。</p>	
<p>〈方 針〉</p>	
<p>環境エンジニアリング株式会社は、産業廃棄物の収集運搬、処分及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に認識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。 2. 環境に関連する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。 3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 電気使用量の削減 (2) 重機械の燃料使用量の削減 (3) コピー用紙の削減 (4) グリーン購入の推進 4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動出来るよう周知徹底するとともに、社外にも公表します。 5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。 	
<p>この環境に関する基本方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、当社の全従業員をあげて環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。</p>	
<p>平成19年12月03日 制定 環境エンジニアリング株式会社 代表取締役 高橋 正志</p>	

4. 環境目標と実績(2007年度)

環境改善活動	具体的施策	目標値 (今期)	(2010年) (中長期)	実績値 (3ヶ月間)	評価
電気使用量の削減 基準年度比3%削減	・未使用箇所電源OFF ・離席時OA機器電源OFF	67,100kWh	268,300kWh (5%削減)	55,530kWh	A
重機械の燃料使用量の削減 基準年度比3%削減	・空フカシの禁止 ・エンジン出力の適正調整	13,563 L	67,300 L (5%削減)	12,490 L	A
コピー紙の削減 基準年度比3%削減	・裏面未使用部の再利用 ・両面印刷による削減	6,800枚 (A4換算)	24,500枚 (5%削減)	5,100枚	A
グリーン購入の推進 意識の向上	・エコマーク製品積極購入 ・エコ対応事務用品の積極購入	意識の向上	意識の向上	極少量の事務用品の購入に対応	A

注) 上記実績値は平成20年1月～3月の3ヶ月間の同年同月比としての短期間での実績値であり、あくまでも途中経過値であります。

- ※評価基準 A：達成率 90%以上
B：達成率 70%以上～90%未満
C：達成率 70%未満

グリーン購入の推進については、環境活動項目抽出時での順位より目的・目標を設定したが、対象社員が少数であり、購入の必要は対応品目も限られており、意識の向上に主眼を置いた活動であった。

5. 環境改善活動の評価

- 電気使用量の削減については、冷暖房温度の設定としてのクールビズ、ウォームビズの施策等が浸透するまでに時間がかかったが、役職員各々が意識して管理するようになった。また、昼休みの室内照明、パソコンの電源オフを徹底することにより、従業員も適度な休憩を過ごしていると判断します。
- 重機械の燃料使用量の削減については、冬期間の閑散期での消費量であるが、適正なエンジン出力での作業、不要時のアイドリングストップ等、オペレーターの自覚による削減が達成できたものと判断します。
- 事業系コピー用紙の削減については、裏面のメモ紙への利用や、可能な範囲での両面印刷等、職員の意識が定着しており、全体消費量は少ないが削減成果は、評価できるものと判断する。
- グリーン購入の推進については、環境活動項目抽出時での順位より目的・目標を設定したが、対象社員が少数であり、購入の必要な対応品目も限られており、意識の向上に主眼を置いた活動であった。
- 水の使用量の削減については、飲料水、水洗トイレ等における少量の消費量であるが、各自節水を心がけるようになったものと日常業務より判断します。
- 排出量の削減については、弁当がら、一般的な事務所からの事業系ゴミでのごく少量であるがゴミ袋の購入管理等からは極端な増加もなく最小限を維持しているものと判断します。

6. 法的及び当社が同意するその他の要求事項

- 当社の事業活動に該当する環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項については、順守状況を定期的に確認し、利害関係者からの指摘、訴訟等は無かった。

7. 2007年度活動の評価と今後の課題

- 今年度の活動を巡して、従業員へは環境に対する取り組みの必要性などの理解が得られてきた。
- 電気使用量の削減、重機械の燃料使用量の削減、事業系コピー用紙の削減、グリーン購入の推進、水の使用量の削減及び廃棄物の削減等の短期的な達成状況であり、今後年間を通しての達成状況を見極めなければ全体としての評価は難しいものと思われます。
- 職員の自覚の向上・定着に期待し、「環境を守り、産業を支える」ために産業廃棄物の適正処理を目指し、事業活動を推進していく所存であります。